

みらいふ。 ビジネスレポート

9月号

September
2018年



株式会社みらいふ
ファイナンシャルプランナー 梅田 道明
〒615-0885
京都市右京区西京極午塚町30
Tel : 075-863-0808 Fax : 075-863-0809
E-mail : news@k-milife.co.jp
URL : http://www.k-milife.co.jp

日本人は世界的にも美術好きの民族として知られています。日本では広義のミュージアムに年間3億人が訪れているといわれています。それほど美術好きの日本人ですが、果たして美術を理解して展覧会に向いているかという疑問が残ります。

人気の美術展には長蛇の列ができる一方で、地方作家の佳作を展示した常設館などは軒並みガラガラだったりするからです。話題作や有名作家に来場者が集中する一方で、知名度の低い作家にはなかなか光が当たらないのが実情のようなのです。背景には美術界や画壇、画廊、キュレーター、パトロンなど様々な問題が絡んでくるようですが、大きな背景として、日本では教養としての美術教育の薄さがあるようです。

欧米では美術教育が厚く、欧州のエリート養成機関の大学では、哲学に代表される美意識の育成が重んじられてきました。たとえば現在でもエリート政治家を多く輩出しているイギリスのオックスフォード大学の看板はいまでも哲学・政治・経済学科です。

これはエリートには大きな権力が与えられるため、哲学を学ぶ機会を与えずにエリート養成することは、権力の私物化や暴走を招きかねず危険であるというのが欧州の根本的な考え方にあります。

美術史、美学をエリートの教養の前提としている欧米では、美術作品は鑑賞するものではなく、読み解くものだと認識されています。

日本では世界でまれに見る美術館、美術展大国でありながら、美術作品を「読み解く」「読み取る」というところまで行っている人は少ないようです。

洋の東西を問わず、いま世界のエリートは、わざわざ会社のお金を使ってまで「美意識」を鍛えています。イギリスのフィナンシャル・タイムズは、減少傾向にあるMBAの出願数に対して、グローバル企業がこぞって幹部候補生をアートスクールや美術系大学への研修に送り込んでいる実態を伝えています。

それはヨーロッパのエリートが美学や美術がエリートの主たる教養であるとして教育されてきたことに加え、企業や社会のグローバル化の進展、さらにAIなどテクノロジーの急速な発展に対して、企業やエリート層が最も必要な素養と認識し出しているからです。

世界中のビジネスエリートが21世紀を生き延びるために必要な教養として、学ぼうとしている美術、美意識とはなにか。その実情といまからでも間に合う学び方を探っていきます。

プラスα 豆知識

- ① 世界のエリートが美意識を鍛える3つの理由
 - ② 企業の不祥事の背景に美意識がある
 - ③ 企業でアート研修が人気。その理由は？
- 今回の記事でお伝えしきれなかった豆知識。ぜひ小冊子(A4判8枚)にてご確認ください。

AI時代を生き残る経営 現代のビジネスエリートはアートセンスを鍛える

さらに詳しい内容を無料情報誌(A4版8P)としてメールにてお届けします

下記申込みフォームにてご記入しFAXにてご送信いただくか、下記アドレスよりビジネスレポート申込みと記入の上ご送信ください。

e-mail : news@k-milife.co.jp

FAX : 075-863-0809

いますぐ
ご返信下さい

会社名 :	部署 :	お名前 :
住所 :		Tel :
E-mail :		Fax :

* ご登録いただいた個人情報、弊社サービスの提供・案内及び今後役に立てるため使用しその目的以外に使用することはありません。